

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 きらら粕屋		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 10日		～ 令和8年 2月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8家族(9名)	(回答者数) 8家族(9名)
○従業者評価実施期間	R8年 1月 10日		～ R8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 4月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができるようにしている	連絡帳アプリを使ってお子さんの状況を共有している。 必要時には、電話でのやり取りを行ったり、面談の時間を設定している。	定期的な対面での面談を充実させる。 保護者の不安や悩みに迅速に対応し、安心して頂けるよう努める
2	生活空間は清潔で心地よく過ごせる環境づくり、またこども達の活動に合わせた空間づくりを心がけ支援している	掃除やお子さんが手に取るものの消毒等は毎日丁寧に行っている。活動内容やお子さんの特性・状況に合わせて、利用する部屋や環境設定を検討している。 危険な箇所、変更した方が良いことなどがあればすぐに職員間で共有し対応している	もっとわかりやすい環境設定や視覚支援を職員間で検討し取り組んでいく。
3	活動プログラムが固定化されないよう工夫している	活動計画を書き出すこと、活動後は振り返りをおこなうことで職員間で情報を共有している。	お子さんの特性やニーズに合わせた個別・集団療育の提供ができるよう研修に取り組み職員の専門性を高めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会活動の支援や、保護者同士、兄弟同士の交流の機会の設定。家族やきょうだいへの支援	保護者へ個別での対応で止まっている 年度途中から利用児童が増えていったため、計画が出来ていなかった	保護者同士での交流や家族で参加できるイベントを計画的に取り組む。
2	非常時等の対応マニュアルの策定や避難訓練についての保護者への周知	マニュアル策定や避難訓練は行っているが、保護者への周知が出来ていなかった。	保護者へお知らせする方法を検討する 避難訓練については、避難訓練に参加していない利用児童にも訓練の様子をお伝えしていく
3	通信やホームページ・SNS等での定期的な保護者への発信	通信の発行やホームページの活用できていなかった。	事業所の取り組みや活動の様子なども全体に知らせる内容を検討し定期的に発行する仕組みを作る。